

# 西三河版



ひまわり  
神谷 みよ  
創日会所属

ニュース、情報は下記へ  
 社会部  
 052-231-1650・5919  
 Eメール  
 shakai@chunichi.co.jp

岡崎支局 〒444-0863  
 岡崎市東明大寺町16-18  
 0564-22-1661 Fax25-1554

豊田支局 〒471-0849  
 豊田市美山町3-34-34  
 0565-24-1010 Fax25-1118

安城通信局  
 0566-76-3355 Fax76-0900

西尾通信局  
 0563-56-3135 Fax56-3136

刈谷通信局  
 0566-21-0077 Fax26-0285

碧南通信局  
 0566-41-0468 Fax43-1047

豊橋総局  
 0532-52-7181 Fax54-4655

中日新聞へのご意見は  
 読者センターへ  
 052-221-0800 Fax221-0819  
 Eメール  
 center@chunichi.co.jp

広告のお申し込みは  
 広告局三河アドセンターへ  
 岡崎 0564-23-3051(代)

掲載写真を購入希望の方は  
 最寄りの中日新聞販売店へ

# 山間地域は避難も危険

台風16号の影響で十九、二十日と連日大雨に見舞われた岡崎市北東部の千万町町と木下町。山崩れの危険性が高まった一方で、町外の避難所までの距離が遠く、「逆に避難するのも危ない」との声も上がり、山間地域の避難の難しさが浮き彫りになった。

(森田真奈子)



大雨警報が出された20日夕方、旧千万町小に自主的に避難した住民ら＝岡崎市千万町町で

木下町に一時間百ミリ以上の雨が降り、避難指示が出された十九日深夜。七十代女性は雨が弱まったすきを見て、市が開設した石原町の避難所、宮崎保育園までマイカーで移動した。保育園までは約七キロの急な山道。真っ暗な山道の移動は怖かったが、家の近くの山崩れも不安だったと話す。

二十日午後市は宮崎保育園を避難所として開設したが、千万町町と木下町の住民たち約十五人は、旧千万町小学校に身を寄せた。この場所は後方に山があるため、市は土砂災害の危険がある際の避難場所には適していないとしている。

市防災危機管理課の担当者は「住民の皆さんの判断

## 岡崎の住民 台風16号「道路寸断 怖い」

であれば、やむを得ない。遠距離の避難が難しい場合には、危険情報を迅速に伝えるなどして対応したい」としている。

緊急時の物資調達にも課題が浮かんた。宮崎保育園には毛布や水などの備蓄品がない。十九日深夜に避難した住民たちはそれを知らず、市職員が急きよ、宮崎小学校の防災備蓄倉庫から毛布などを運ぶ事態となった。

同課の担当者は「備蓄品は全ての避難所にあるわけではない。避難時には持ち出し袋などを可能な限り用意してほしい」と住民の自助努力を促す。

木下町総代の加藤喜弘さんは「山奥では避難所までの道が土砂崩れで寸断することもある。高齢者も多い地域なので今回の経験を基に避難方法を住民で話し合いたい」と話している。